

草津市国際交流協会 K I F A					平成 2 9 年 5 月 2 5 日		
	会長	副会長	副会長	副会長	事務局長	協会	記録作成者
	***	***	***	***			浦 幹夫
件 名	平成 2 9 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 第 1 回運営委員会						
日 時	平成 2 9 年 5 月 2 5 日（木） 1 0 時 0 0 分～1 2 時 0 0 分						
場 所	草津市役所「6 0 1 会議室」						
出席者	委員長：井上拓也、委員：金網蓉子、委員：船見和秀、委員：加藤進一 委員：恩地美和、地域日本語コーディネーター：中西まり子、事務局：浦幹夫						

平成 2 9 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の第 1 回運営委員会を開催した。

会議は添付の「第 1 回運営委員会会議次第」に則り進めた

1 . 自己紹介

計画メンバーの重松叡子さんより辞退の申し入れ有り、今年度は 8 名で進める
尚、今回は公務で服部英亜さんは欠席となったので 7 名で進めた
初めての顔合わせでもあるので、各人よりの自己紹介を行った

1) 井上拓也：立命館大学総務部 B K C 地域連携課課長

BKC でも外国人留学生の数が増え、彼らが地域で生活する上での困り事が
増えその対応策の検討が重要な立場であるので、このような事業が浸透
し留学生たちが、地域で生き生きと生活して行けるように、積極的に事業
に係っていききたい

2) 恩地美和：日本語教室「オリーブ」の代表

草津市内で日本語教室「オリーブ」の代表をしています。今年度は
昨年に引続き再委託先として日本語教育の実行を推進します

3) 金網蓉子：びわこ日本語ネットワークの代表

昨年度は、BNN20 周年記念事業があり、あまり参加できなかった。
今年度は 3 年目の集大成の年であり確実に参加していききたい

4) 加藤進一：草津市役所広報課グループ長

広報という立場でこの事業にすぐどう取り組めるかは見えていないが、議
論を通じて協力できる部分は積極的に参画していききたい

5) 船見和秀：

昨年度に取組 2 の一部に参加させてもらった。今年度は運営委員会メンバ
- として事業の方向付け等に参加させていただき、事業方針を明確にして
いききたい

6) 中西まり子：KIFA 副会長、地域日本語教育コーディネーター

3年目の事業になるので、昨年度事業でやりきれなかった点の改善を中心に前向きに進めていきたい。特に今年度は多文化共生に注力し、県下の先進地域との協力関係を構築していきたい

7) 浦幹夫：KIFA 事務局長

3年目の継続事業であり、昨年度出来なかった課題をクリアしていくと同時に、「やさしい日本語」をツールに他の地域の参考になるような活動にまでまとめていきたいと考えているので協力お願いしたい

2. 議題

(1) 企画書内容の検討

1) ネットワーク会議メンバーの人選の確認

【討議中の意見】

活動を県域レベルに広げて行くためには、滋賀県観光交流局国際室、滋賀県国際協会の参加は必須と考えられる。

但し、現状では特に取組4「多文化共生フォーラム」について詳細が検討中の段階にあり、具体的な依頼内容も明確でない状況。

「多文化共生フォーラム」の内容検討の時点より入ってもらわなければ、実効性のある企画がたてられない。

出来上がった計画書を持って取組の一つを依頼して行くよりも、会議に参加してもらい「Face to Face」で話合う方が効果がある

「オブザーバー」という立場でも最初より議論に参加して行ってもらいたい

【結論】

ネットワーク会議に滋賀県観光交流局国際室、滋賀県国際協会に参加してもらう方向で依頼していく（事務局）

(2) 取組2「日本語教育支援者研修」

1) 取組の目標の内容確認（「やさしい日本語ツーリズム」の考えという言葉）

【討議中の意見】

このまま読むとツーリズムと言う言葉で、観光を主眼に置いた活動ではないのかと思われる

今回の事業は「生活者としての外国人」のための日本語教育事業ということが、取組目標より抜けているのではないと思われる

本当の狙いは、やさしい日本語を使った多文化共生社会に向けての生活者のための日本語教育であることを明確にしていく

「やさしい日本語ツーリズム」の言葉を入れる以上、どのようにこの言葉を使っているのかの考えを参加者の共通認識にしておく必要がある

今回の日本語教育普及事業は、お年寄り、子供たち、障害がある人たちでもやさしい日本語をツールとして使って、コミュニケーションできるようにしていきたい

今回の事業が滋賀県における草津市での初めての取組として、リーダーシップをとって他の地域に広めていけるような、モデルケースとして取組んでいきたい

参加対象を「窓口の職員」と言うと限定的にとらえられるので、「すべての方」としてはどうか

【結論】

先進地事例の柳川市の「やさしい日本語ツーリズム」の事例の理念を参考にしてこの事業に取り組んでいく

2) 取組2の内容検討

【討議中の意見】

第1、2回は対象者を限定して「やさしい日本語」とはの基本を教える

対象者：外国人と接する機会のある人（消防、教育、保育士、窓口業務）

3、4、5回目は「やさしい日本語の作り方講座」として「理論」「Work Shop」「実践」の3回にわたり実施（10月1日、8日、15日）

6回目は草津市が受入れるポンティアック市の中学生使節団に参加してもらい、実践授業とする

7、8回目は11月5日の午前、午後で新規受講者獲得に向けての講義

9、10回目は新規受講者講義の継続（11月19日、12月3日）

【結論】

全体の流れを含めて、全10回を船見先生の担当で進める

(3) 多文化フォーラムの内容検討

1) テーマをどうするか

【討議中の意見】

テーマ案のなかの「防災」ではどんなことを計画しているのか？

いまのままではテーマに魅力がないのでは？

草津市の危機管理課と一緒にワークショップを計画しているのと同時に、機能別消防団員の体験発表を考えている

あまり特定のテーマでなく、この事業目的の生活者に日本語をいかに教えていくかなので、それに成功している先進地でやさしい日本語の広報が何故うまくいったのかを聞き出すのも良い方法

多言語化ばかりで良いのですか？やさしい日本語の方が取組みやすく効果が大きいのでは？

やさしい日本語の草津バージョンを作り、やさしい日本語を今後草津で普及させていくには何をしていけばいいのか？

あまり草津にこだわると、先進地の事例を聞き出したり、他地域への事業の波及性を高めるには逆効果では？

町で一緒に暮らす生活者としての外国人の「暮らし」「働き」を解決する提言を聞き出せれば？

【テーマの結論】

「やさしい日本語で外国人が暮らしやすい町をつくるための10の提言」
として取り組む

2) どのようにして組立てるのか

事例紹介（パネルディスカッション）

- ・ 湖南市の先進地事例（やさしい日本語での広報誌）
- ・ 機能別消防団員として活動してみて気づいた点
- ・ 保育の現場で困った事例

Work Shop

- ・ 10の提言をまとめる

3) 他市（湖南市、甲賀市）への参加依頼

他市に依頼していくには、行政の担当窓口として草津市のまちづくり協働課より正式に行政窓口へ依頼し、その後具体的な話し合いを進める

（4）今後の進め方

- 1) 運営委員会の内容を受けてネットワーク委員会で詳細の事業計画を進める
- 2) 今年度は他市への協働の展開を進める必要があるため、活動の計画立案時点より滋賀県観光交流局国際室、滋賀県国際協会の参加協力を依頼していく

3. 第2回運営委員会予定

日時：平成29年10月13日（金） 10:00 ~12:00

場所：草津市役所 「201会議室」

以上

草津市国際交流協会 K I F A					平成 2 9 年 1 0 月 1 3 日		
	会長	副会長	副会長	副会長	事務局長	協会	記録作成者
	***	***	***	***			浦 幹夫
件 名	平成 2 9 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 第 2 回運営委員会						
日 時	平成 2 9 年 1 0 月 1 3 日（金） 1 0 時 0 0 分～ 1 2 時 0 0 分						
場 所	草津市役所「2 0 1 会議室」						
出席者	委員長：井上拓也、委員：船見和秀、委員：恩地美和 地域日本語コーディネーター：中西まり子、事務局：浦幹夫						

平成 2 9 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の第 2 回運営委員会を開催した。

1 . 事業の進捗状況の確認

1) 取組 1 「ネットワーク会議の状況」

1 . 第 1 回ネットワーク会議（平成 29 年 6 月 8 日）

自己紹介

事業全体の計画確認

運営委員会との違いの確認

2 . 第 2 回ネットワーク会議（平成 29 年 7 月 19 日）

各取組内容確認

取組 4 「多文化フォーラム検討会」の設置決定

テーマ(案)「やさしい日本語で外国人が暮らしやすい町をつくるための提言」

ネットワーク委員会の目的再確認

3 . 「多文化フォーラム第 1 回検討会」(平成 29 年 9 月 20 日)

構成案（先進地事例発表+Work Shop）で決定

事前開催の UDCBK での Work Shop の検討

テーマ(案)「外国にルーツを持つ人の地域活動参加」

4 . 第 3 回ネットワーク会議（平成 29 年 10 月 12 日）

先進地事例発表先の決定

会場問題

テーマ「外国人も暮らしやすいまちづくり（共に輝く未来に向けて）

5 . 「多文化フォーラム第 2 回検討会」(平成 29 年 10 月 17 日)

詳細内容決定

6 . 第 4 回ネットワーク会議（平成 30 年 1 月 9 日）

多文化フォーラム内容の確認

今年度事業の総括

7. ネットワーク会議の状況

当初 4 回の計画で進めていたが、会議で多文化フォーラムの計画を
詰め切るのは無理と判断し、別途「多文化フォーラム検討会」を
作り 2 回開催して詳細を検討している
内容的には幅広い項目を検討して行ってくれている
委員が 12 名は少し多すぎた

2) 取組 2「日本語教育支援者研修会」

1. 第 1 回、第 2 回を市役所職員向けに「やさしい日本語講座」を開設

2. 「やさしい日本語の作り方講座」として 4 回開催

3 回を座学で研修

4 回目を、ポンティアック市の中学生使節団を「やさしい日本語」で
草津市内を案内する

3. 「新規支援者獲得講座」を 4 回開催予定

4. 取組 2 の内容について

市役所職員向けの研修が出来たのは、この事業の大きな成果と考える

「やさしい日本語」に対する取組は大阪他で広がり始めている

さらに広めるには、議員に多文化共生に興味を持ってもらい、行政に
働きかけてもらう事が重要

新規支援者講座に対する受講者は？

※現状 30 名

内、新規の人は？

※詳細判らないが 2 割位と思える

やはり日本語教育者の Brush Up の講座になってしまう

3) 取組 3「生活者のための日本語教室」

1. K I F A 教室

初級向けクラスとして 12 回開催予定

体験型クラスとして 8 回開催予定

2. オリーブ教室

関西弁講座、オノマトペ、地もトーク等 10 回を計画している

4) 「多文化フォーラム」

1. フォーラム内容

内容については、ネットワーク会議で検討を重ねて行ってくれている
のでその内容を正にしたい

5) 事業全体について

1. 事業内容

各事業とも詳細の検討を行い、順調に推移している

2. 事業全体

平成 30 年 1 月 21 日の多文化フォーラムが終わった時点で、第 3 回
運営委員会を開催し事業全体を統括したい

2. 次回第 3 運営委員会予定

1) 日時 平成 30 年 2 月 15 日(木) 10:00 ~ 12:00

2) 場所 草津市役所「601 会議室」

以上

草津市国際交流協会 K I F A					平成 3 0 年 2 月 1 6 日		
	会長	副会長	副会長	副会長	事務局長	協会	記録作成者
	***	***	***	***			浦 幹夫
件 名	平成 2 9 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 第 3 回運営委員会						
日 時	平成 3 0 年 2 月 1 5 日（木） 1 0 時 0 0 分～ 1 2 時 0 0 分						
場 所	草津市役所「6 0 1 会議室」						
出席者	委員：船見和秀、委員：服部英亜、委員：加藤進一 地域日本語コーディネーター：中西まり子、事務局：浦幹夫						

平成 2 9 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の第 3 回運営委員会を開催した。

・事業の各取組の活動結果の確認

1) 取組 1 「ネットワーク会議の状況」

1 . 開催状況

当初計画時点では 4 回の会議を設定していた

取組 4 「多文化共生フォーラム」の内容について、さらに幅広い人材の意見を聞くために分科会として「多文化共生フォーラム」検討会を設定して 2 回の会合で詳細を詰めた

合計 6 回の開催となったが、17 名（内外国人 6 名）の方に参加してもらえ、様々な意見が聞けた

2 . ネットワーク会議の成果

幅広い分野、年代、国籍の参加者が集まった

各取組 2,3,4 の詳細についてこの会議での決定事項が反映できた

この会議でのメンバーの多くが、多文化共生フォーラムの Work Shop の講師を務めてくれたので、充実した内容となった

2) 取組 2 「日本語教育支援者研修」

1 . 市役所職員への「やさしい日本語研修会」の開催

運営委員会。ネットワーク会議に参加している行政職員の協力を得て、市役所職員への研修会が開催できた

2 回の研修会に計 59 名が参加してくれた効果は大きい

行政との協働で事業が行えたことは、この 3 年間の活動の大きな進歩と評価できる

2. 第3回～第6回のすでに活動している指導者向けの研修会
 - 4回の講座に平均28名の参加者が集まった
 - Work Shopに補助者として、日本語を学習中の外国人に出てもらい
実戦形式で行えた
 - 第6回はその時草津市を訪問中であった、姉妹都市ポンティアック市の
中学生大使一行を、やさしい日本語で草津を案内した
3. 第7回～第10回は新規参加者獲得講座と位置付けた研修会
 - 4回の講座に平均26名の参加者が集まった
 - 受講者の中より、草津市国際交流協会の日本語教室に1名、オリーブ
の日本語教室に3名の新規の指導者が生まれた
- 3) 取組3「地域住民としての生活向上に向けた日本語教室」の実施
 1. 草津市国際交流協会の日本語教室
 - 「中上級クラス」「初級クラス」「体験型クラス」のクラスを設置して
受講者のニーズに合わせた運営が行えた
 - 時間数も、4時間+26時間+19時間と合計49時間実施出来た
 - 特に体験型では、警察署、市役所各課、剣道連盟を様々な部署の協力
を得られて効果のある体験型クラスが実施できた
 2. オリーブの日本語教室
 - 20時間の教室を再委託事業として受けて頂いて実施した
 - 昨年度好評であった「関西弁講座」「防災教室」等開催できた
 3. 合計の日本語教室実施時間
 - 合計69時間の日本語教室が実施できた
- 4) 取組4「多文化共生フォーラム」
 1. 内容確認
 - 先進地事例4件
 - ・「ともにいきる地域づくり」甲賀市国際交流協会
 - ・「広報のやさしい日本語版」湖南省国際協会
 - ・「外国からの人々と野路町の人々のハートフルなものがたり」フウーン
 - ・「介護の現場で働く外国人の語り」パイリーン
 - Work Shopのテーマ
 - ・外国人と日本人が共に暮らすために！違いを生かしたまちづくり
とは？
 - ・住みやすいまちづくりに向け、地域ができること
 - ・事例を聞いて外国人と日本語で会話できるよう、それぞれができる
こと
 2. 成果
 - 参加者も83名もあり、幅広い地域、組織、年代の方が参加した
 - Work Shopで出た意見をまとめて、3年間の成果の提言にしてい

・この１年間の活動全体を総括（３年間の事業全体をみての意見も）

１）「多文化共生フォーラム」のまとめの必要性

１．Work Shop で出た内容を、まとめて書面で残す

１０グループで行った Work Shop の内容のまとめが必要

出たアイテムのジャンル分けが必要

教育、言葉、防災、医療等

同時に長期的な活動か、すぐ出来る活動かにも分類する

２．今回は話が来ていない草津市教育委員会への投げかけ？

外国籍児童への指導（即効性のある課題）

２）この３年間の事業全体の成果（添付の３年間の取組についてで確認）

１．平成 27 年度

取組 2, 3 は予定通りに運営できた

取組 4 で市民への日本語教室と多文化共生の理解を広げるために

「多文化共生シンポジウム」に取組んだが、期待した層への広がりが見られなかった

２．平成 28 年度

運営委員会、ネットワーク会議に行政職員、市議員の方にも参加いただけるようになり活動の底辺が広がった

World たぶんカフェ・ファイナルには 16 名の議員が参加頂いた
だいた（24 名中）

日本語教室開催では、UDCBK の理解と協力を得て、毎週「やさしい日本語サロン」を定期的に開催できるようになった

３．平成 29 年度

行政の方の参加により、取組への理解が深まり行政職員向けの「やさしい日本語研修会」を 2 回開催できた

指導者研修会でも、新規指導者確保を目的に行ったことの効果が出て KIFA、オリーブ共に指導者の増加に繋がった

外国人の地域貢献の効果が実効に結び付いてきた

「機能別消防団員」「野路町とのベトナム DAY の共同開催」

日本語教育必要性の認識が、市議員、自治会関係者の各層に確実に広がってきた

他の国際交流協会（甲賀市、湖南市）他の草津市で活動する諸団体との交流も広がり成果が出てきている

３）３年間の活動の総括をして今後への展開を議論した

１．この３年間で沢山の課題が見えてきて、３年間に解決された事も多い

２．まだまだこれから取組むべき課題も明らかになってきた

3. この3年間の活動を総括して、平成30年度はその課題の中より、優先付けした課題の解決に取り組んでいきたい
4. その課題を KIFA のビジョンに取り組んで活動して行く
5. その内容を精査しながら、更に予算化必要な課題が明確になった時点で、文化庁事業として再度の取組も検討が必要

4) 新たな取組の視点

1. 草津市の魅力の再発見
その発見の主役は外国人
2. 琵琶湖の魅力の PR
大きな魅力を抱えている琵琶湖を上手くプロモーションして行く
草津市は西日本一番の住みよい街（適度な都会・・自然のある）
3. 留学生の数、技能実習生の増加
その人達をどう仲間（味方）にしていくかの考えを広げて行く

. 文化庁アンケート

- 1) 本事業の実施により、地域の「生活者としての外国人」に対する日本語教育の体制整備は進みましたか
1. 総括でも話したように、市会議員・自治体関係者の理解者が増え、野路町のように協業イベントが開催できる地域も出てきているので、評価は「かなり進んだ」とする
- 2) 本事業の実施により関係団体との連携はすすみましたか
1. この分野も他の国際交流協会、他の関係団体は勿論、草津市内で活動する多くの市民団体との連携も進んだので、「かなり進んだ」と評価する
- 3) 本事業の実施により地域住民の日本語教育に対する理解は深まりましたか
1. 一部地域では協業イベントの開催にまで持っていけたが、学区ごとの温度差がまだまだ大きく更なる活動が必要と感じられるので、評価は「まあまあ深まった」とする

以上

草津市国際交流協会 K I F A					平成 2 9 年 6 月 1 9 日		
	会長	副会長	副会長	副会長	事務局長	協会	記録作成者
	***	***	***	***			浦 幹夫
件 名	「生活者としての外国人」のための日本語教育事業（平成 2 9 年度） 第 1 回ネットワーク会議						
日 時	平成 2 9 年 6 月 1 9 日（月） 1 0 時 0 0 分～1 2 時 0 0 分						
場 所	草津市役所「2 0 1 会議室」						
出席者	委員長：宮下聖史立命館大学講師、委員：溝内辰夫、委員：大塚佐緒里 委員：大溝奈緒、委員：Jie Zhang、委員：谷口デボラ、委員：中原勝一 委員：西垣和美、委員：恩地美和、委員：鶴田真理子、 地域日本語コーディネーター：中西まり子、事務局：浦幹夫						

平成 2 9 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の第 1 回ネットワーク会議を開催した。

1. 自己紹介

初めての顔合わせでもあるので、各人よりの自己紹介を行った

1) 宮下委員長：立命館大学共通教育推進機構サービスラーニングセンター

3 年目の事業の継続であり、3 年間の成果をまとめる大事な位置づけになっているし、このネットワーク会議が取組の基本の活動になると思うので、参加者よりの積極的な参加をお願いします

2) 溝内辰夫：草津市役所未来研究所

昨年より参加しており、昨年はやさしい日本語を共通言語として 3 回の「たぶんカフェ」を開催でき活動に協力できた。今年度も共通の課題である多文化共生の視点より活動に協力していきたい。

3) 西垣和美：草津市議会議員

昨年度より参加させてもらっているが、昨年は議会と多文化の繋がりを作ることが出来た。今年度も多文化共生の推進を進めていきたい。

4) Jie Zhang：外国人代表（中国出身）

2 年前に草津に来ました。外国人の目線での意見を言えるようにしていきます。

5) 中西まり子：草津市国際交流協会（地域日本語コーディネーター）

この事業のコーディネーターとして参加している。3 年目の集大成であり、2 年目に出来始めた繋がり育み成長させて、多文化共生の推進を進めて行きたい。

6) 大溝奈緒：草津市役所まちづくり協働課

新卒で入ったので、あまり事業が理解できていませんが、皆さんの意見聞きながら理解度を深めて、事業に協力して行きたい。

7) 中原勝一：草津市志津南まちづくり協議会前会長

以前より KIFA メンバーより活動への参加を進められていたが、最近まち協議会長職をやめたので、今回この事業に参加させてもらう。

8) 鶴田真理子：草津市国際交流協会多文化共生部会部会長

KIFA で多文化共生部会の部会長をしている。最近 KIFA の活動がイベント中心の活動になってきているが、原点に返って多文化共生の視点を大事にして活動を進めて行きたいと思います。

9) 恩地美和：日本語教室「オリーブ」代表

オリーブ開校して 23 年になる、当初は KIFA 活動も限定的であったので自分達で異文化理解講座等を開いてきたが、最近 KIFA 活動も多面化してきているのでその部分は KIFA に任せ、日本語教室に特化している。

この事業では、取組 2 のコーディネーターと取組 3 の日本語教室 20 時間分を再委託事業として担当している

10) 大塚佐緒里：草津の元気と自慢土産づくり隊（草津市まちづくり提案事業）

ひとまちキラリプロジェクトで活動して、外国人も草津の良い点を発信したいと思っていることに気づき、今年も Work Shop 開催できた、多文化共生の活動に取組んで 3 年目になるので、活動を広げて行きたい。

11) 谷口デボラ：外国人代表（ペルー出身）

来日して 26 年になる、外国人の視点での意見を言っていきたい。

2. 事業の趣旨説明（事務局）

文化庁に提出している【事業計画】の内容を説明し、今年度事業全体を理解してもらった。

【議論】

1) 取組 1 の目的に「行政での日本語教育を担う多文化共生担当窓口の設置の必要性及び具体的施策の立案」となっているが、草津市の現状は？

又、取組内容の詳細に「日本語教育を担う多文化共生担当窓口設立の具体策を検討する」となっているが？

A . 昨年度に草津市役所の外国人の相談窓口としてはまちづくり協働課が担うということになったが、多文化共生窓口は決まっておらず、市としての多文化共生施策の進み方の確認を含めて検討を進めねばならない。
どこまでできるかは別に、必要性を訴え設置を求めていく活動は継続していかなければならない。

2) 取組 1 に滋賀県国際協会のメンバーが抜けているが？

A . 昨年度は参加してもらったが、昨年度の議論が草津市内の事に終始したので国際協会として出席する必要性に疑問が出たので、今年度の活動方針が明確になった時点で、その必要性が理解できればオブザーバーとしてでも参加して行きたい。

3 . 平成 29 年度運営委員会議事録の確認

5 月 25 日に開催された運営委員会の議事録確認した

1) 運営委員会とネットワーク会議の役割の明確化

A . 運営委員会は事業全体の方向を決め、中間で進捗状況の確認を行い、最後に事業の統括を行うということで事業全体の活動を見ていく。

各取組の企画、計画立案、詳細内容検討、講師検討等の実施計画は全てネットワーク会議で行う。

2) 取組 2 で「やさしい日本語ツーリズム」の事が議論されているが、計画にも無い話だがどういうことか？

A . この話は取組 2 を今年度任せる船見さんと事前打ち合わせ時点で、出た話であり「やさしい日本語ツーリズム」の中に「やさしい日本語」と言う言葉が入っているので今回の事業で取り組めるのではと考えたが、その話だけが先行してしまった。

県よりもこの言葉を使うのは、この事業にそぐわないのではとの指摘を受けて、運営委員会で議論したのが経緯。

4 . 取組 2 「日本語教育支援者研修」

この取組は目的も明確なので先行して予定はできているのでその内容の確認

1) 8 月 24 日（木）の「やさしい日本語のリーダーになろう」

この講座の対象者として外国人に接する機会のある人としているが、行政関係者にどのように広報して参加者を募るのか？

A . まちづくり協働課よりは、関係先に参加依頼はできると聞いているので、具体的にまちづくり協働課と参加者を募る方法を相談する。

行政関係者に出てもらうには講義時間 4 時間は長すぎるのでは？

A . この件もまちづくり協働課と相談する。

行政担当者を主たる参加者にするには、会場は市役所の方が良いのでは？

A . この件もまちづくり協働課と相談する。

この回が 2 h になれば、新規支援者獲得講座を、2 h 増やすようにする。

2) 11 月 5 日よりの「新規支援者獲得講座」

この内容は是非、学生への広報をしっかりとって欲しい。

A . チラシ作成して広報進める。

チラシは 1 月前までに作成する。

A . 専門の人に頼んで、学生の興味を引くようなチラシにする。

5 . 取組 3 「生活者としての外国人のための日本語教室」

KIFA、オリーブで計画を立てて進める

1) KIFA の決定内容

7 月 8 日「敬語について」

7 月 9 日「ベトナムを知るイベント」

7月23日「やさしい日本語での防災体験」

9月10日「シェイクアウト（防災体験）」

2) オリーブの決定内容

7月30日「関西弁について」

8月20日「関西弁について」

8月27日「関西弁について」

6. 取組4「多文化共生フォーラム」

運営委員会の議事録内容に従って検討した

1) テーマについて

防災をテーマにすると外国人の参加は見込めない。

防災無線を聞いても判らないし、滋賀には災害がないと思っている。

中国人も必要性は理解できていない人は多い。

大事な内容と思うが、防災は魅力がない。

食とかやさしい日本語には興味あるので、外国人は参加する。

テーマの中に「日本語教室の存在をどうして広報していくか？」を入れて欲しい。存在がわかれば参加して、友達ができ生活に余裕が生まれる。

【結論】テーマは運営委員会案のより具体的な10という数字を抜いた

「やさしい日本語で外国人が暮らしやすい町を作るための提言」とする。

2) 構成について

1月21日(日)を予定しているが1日で提言までまとめるのは難しい。

昨年のように事前にUDCBK主催で3回ほどのWork Shopをして、課題を明確にしたうえで、1月21日に提言をまとめる方法はどうか？パネルディスカッションも良いと思うので、事前のWork Shopと1月21日両方に出席してもらえるようにすれば？

折角、提言をまとめたならば市長に報告する場も作っていききたい。

構成案はここで結論は出ないので次回はこのテーマに絞って、各自の意見を聞いて決めていききたい。

3) 広報について

他市への参加依頼は、まちづくり協働課よりお願いしていく。

自治会関係者への参加依頼は、これもまちづくり協働課に依頼してまちづくり協議会連合会の会長会合で説明し、そこで了解を得たうえ、賛同してくれる地域に個別にお願いしていく。(地区には温度差がある)

まちづくり協働課の地域支援員の方にも説明し参加をお願いしていく。

5. 次回のネットワーク会議

7月19日(水) 10:00～12:00

草津市役所「201会議室」

以上

草津市国際交流協会 K I F A					平成 2 9 年 7 月 2 4 日作成		
	会長	副会長	副会長	副会長	事務局長	協会	記録作成者
	***	***	***	***			浦 幹夫
件 名	「生活者としての外国人」のための日本語教育事業（平成 2 9 年度） 第 2 回ネットワーク会議						
日 時	平成 2 9 年 7 月 1 9 日（水）1 0 時 0 0 分～1 2 時 0 0 分						
場 所	草津市役所「2 0 1 会議室」						
出席者	委員長：宮下聖史立命館大学講師、委員：溝内辰夫、委員：大塚佐緒里 委員：大溝奈緒、委員：Jie Zhang、委員：中原勝一、委員：西垣和美 委員：恩地美和、委員：鶴田真理子 地域日本語コーディネーター：中西まり子、事務局：浦幹夫 オブザーバー：岩佐卓實（危機管理課）						

平成 2 9 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の第 2 回ネットワーク会議を開催した。

1 . 取組 2 「日本語教育支援者研修会」

1) 事業内容確認

第 1 回、第 2 回の「やさしい日本語のリーダーになろう」

この研修を実施するに当たり、是非草津市役所の担当窓口職員が参加できるような研修として取組んでいければとの意向もあるので、そのような研修会になるように進めて行く

7 月 21 日に船見先生、草津市役所まちづくり協働課、恩地委員、中西委員、事務局で打合せて詳細を決めていく

第 1 回は 8 月 24 日(木) 13:30～15:30

第 2 回は 8 月 25 日(金) 9:30～11:30

の 2 回、草津市役所職員対象の研修会として開催する

学校の教員（教育委員会経由）、市民センター職員、まちづくり協議会職員にも参加依頼して行く

第 3 ～ 10 回の研修内容について

この内容も、7 月 21 日の打合せにより検討進めて行く

第 3 回～6 回は「やさしい日本語の作り方講座」で進める

第 7 回～10 回は「日本語指導者養成講座【あなたも、やさしい日本語で交流しませんか！】

2 . 取組 3 「生活向上に向けての日本語教室」

1) KIFA 教室内容

7 月 23 日「How to ぼうさい」

草津市の機能別消防団【外国人参加の消防団】の活動内容を公知して

9 月 10 日イベントに繋げる良い教室

「多文化共生の取組体験」であることを明確にして、幅広く公知する

8月22日「びわ湖の恵みをまるごと食べよう」

外国人が滋賀の食文化を知る良い機会となるので、説明時に「やさしい日本語」で説明することを付け加え、より有意義な活動にしていく」

9月10日「くさつシェイクアウト 2017」

7月23日の研修を受けた機能別消防団の外国人が中心となり、外国人に幅広く呼び掛けて教室の効果を上げていきたい。

BNN(びわこ日本語ネットワーク)作成の「いのちをまもる：やさしい日本語で書かれた冊子を使用。

このチラシをやさしい日本語で再作成し、オリーブ、シブスに配布

2) オリーブ教室

「関西語でしゃべってみひん」

やさしい日本語での関西弁の教室(3回講座)

3. 取組4「多文化共生フォーラム」

- 1) 取組内容の詳細は別途、分科会作って検討した方が良いのではとの意見がありその方向で進める方向で決めてメンバー人選をした
メンバーの内諾得たうえで、運営委員会メンバーに書面了解を得て上で第1回の分科会を実施する

【メンバー案】

宮下聖史・溝内辰夫・大溝奈緒・中原勝一・鶴田真理子・中西まり子

以上はネットワーク会議メンバー

金子則江(湖南市職員)・・・まちづくり協働課より依頼する

フンさん(ベトナム人)・・・中西さんより依頼してOK

リュウさん(中国人)・・・恩地さんより依頼してOK

吉積尚子(日本語教室【虹】コーディネーター・・・恩地さん確認中

2) 第1回分科会予定

平成29年9月20日 13:30～15:30

草津市役所「201会議室」

4. その他「取組1ネットワーク会議」の目的・目標の再確認(討議)

- 1) 「行政での日本語教育を担う多文化共生窓口設置の必要性」

Q: 窓口の役割は明確になっているのか?

A: 日本語教育を含めて、多文化共生の窓口はまちづくり協働課となっていて
るが、具体的には窓口業務のみで必要関係部署に紹介するところまで

Q: 草津市内の日本語教育の窓口は教育委員会ではないのか?

A: 学校現場でも困っている問題だが、具体的に決まっていない。

外国籍の子供を受け入れるのにも、その子たちは義務教育の対象でない
と言う問題もあり明確ではない

定住者で日本国籍取得者の子供は義務教育は受けられる

Q：草津市としての就学に対する姿勢が判りづらいのが現状

A：多文化共生ビジョンの提言が必要ではないか？

Q：草津市の多文化共生に対する対応は？

A：平成 28 年度の市の方針の中に「多文化共生の推進」の言葉が出てきているが、具体的なビジョンの話には展開して行っていない
市議会の一般質問で求めていくのも方法では？

2)「草津市での多文化共生窓口の設置に対する具体的施策の検討」

Q：現状での問題点を出してみる

教育格差が広がってきている（親の態度でギャップが大きくなる）

地域格差も大きい（ごみの出し方）

行政の横のネットワーク作りをが必要・・・行政の課題

A：そのための対策として

現状明確でない行政としての「日本語教育を含む多文化共生窓口」の設置を進めて行ってもらえるように、この活動自体の提言としてまとめていって、多文化共生フォーラムの市長提言にも織り込んでいきたい

5．次回のネットワーク会議

10 月 12 日(木) 10:00～12:00

草津市役所「201 会議室」

以上

草津市国際交流協会 K I F A					平成 2 9 年 1 0 月 1 2 日作成		
	会長	副会長	副会長	副会長	事務局長	協会	記録作成者
	***	***	***	***			浦 幹夫
件 名	「生活者としての外国人」のための日本語教育事業（平成 2 9 年度） 第 3 回ネットワーク会議						
日 時	平成 2 9 年 1 0 月 1 2 日（木）1 0 時 0 0 分～1 2 時 0 0 分						
場 所	草津市役所「2 0 1 会議室」						
出席者	委員長：宮下聖史立命館大学講師、委員：溝内辰夫、委員：大塚佐緒里 委員：Jie Zhang、委員：中原勝一、委員：西垣和美、委員：谷口デボラ 委員：恩地美和、委員：鶴田真理子 地域日本語コーディネーター：中西まり子、事務局：浦幹夫						

平成 2 9 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の第 3 回ネットワーク会議を開催した。

1 . 取組 2 「日本語教育支援者研修会」

1) 事業内容確認

第 1 回、第 2 回の「やさしい日本語のリーダーになろう」

第 1 回は 8 月 24 日(木) 13:30～15:30

第 2 回は 8 月 25 日(金) 9:30～11:30 の 2 回、草津市役所職員対象の研修会として開催した（各回 40 名の参加者有り）

第 3 ～ 10 回の研修内容について

3～5 回は「やさしい日本語の作り方講座」として開催中

6 回は実践教室 10 月 28 日にポンティアック中学生対象に実践」

7～10 回は新規指導者獲得講座として、11 月～12 月に開催予定

2 . 取組 3 「生活者向上に向けた日本語教室」

1) KIFA 教室内容

「できる？できた！くらしのにほんご」(初級向クラス)

10 月 7 日開始し、1 月 13 日まで 12 回開催予定

「KIFA 体験型クラス」

6 月 27 日から開始し、全 8 回の予定

授業時間

初級クラス (2h × 12 回 = 24h)

体験型クラス (2h × 5 回 + 3h × 3 回 = 19h)

KIFA 全体で 43h の予定

2) オリーブ教室

「関西語でしゃべってみひん」3 回とその他 7 回の計 10 回(20h)の予定
オノマトペの授業としてバス旅行を計画中

3 . 取組 4 「多文化共生フォーラム」

1) 第 1 回多文化フォーラム検討会の議事 3 項の内容の確認

テーマに提言を入れないことは了解できる

やさしい日本語の言葉も入れると対象が限定されるので外すこと同意

2) 多文化フォーラムの名称は

多文化共生フォーラムとしたいが、意味としては多文化共生の考えを入れて進めているので、名称としては「多文化フォーラム」で進める

3) 具体的なフォーラムの内容検討

テーマについては検討会の結論「外国にルーツを持つ人の地域活動参加」とすると、甲賀市、湖南市に依頼している先進地事例の内容と異なってくるので再検討必要

「外国人」と「外国にルーツを持つ人」とどちらの表現の方が良いかを、検討し「外国人」を使う方がこの活動に適合すると考えた

テーマ(案)の再検討・・・検討会で再確認をお願いする

「外国人も暮らしやすいまちづくり（共に輝く未来に向けて）」

このテーマの方が、まちづくり協議会等自治会関係者に参加お願いする時に理解されやすい

4) 開会挨拶

宮下委員長に 3 年間の活動内容の紹介も入れてお願いする

その中の、昨年の World Café の内容説明は中嶋前議長にお願いしてみる

西垣委員、中西委員で確認お願いします

5) 先進地事例発表（下記 4 例でお願いする）

甲賀市国際交流協会に「ともにいきる地域づくり」をテーマに、制定までの経緯、具体的な活動内容を話していただく（20 分）

湖南市国際協会には「多文化共生プラン」について話してもらう予定であったが、草津市にはそれが無い状況なので、「広報こなん（やさしい日本語版）」の制定経緯と、その活用状況の話の方が草津市には聞きやすいのでは？
ベトナムコミュニティに「地域参加活動事例」と「機能別消防団」の話をしてもらう

介護職員研修を受けている人に介護の悩みをテーマに話してもらう

発表者は恩地さん決定

6) Work Shop

内容は多文化フォーラム検討会に任せる

4 . UDCBK 開催の事前 Work Shop

1) 「ベトナムコミュニティ」「介護職員」の 2 件について開催する

12 月に開催する方向で、溝内さんに進めてもらう

日程、内容等一任します

5 . 1 月 21 日の詳細検討

1) 開催時間について

13:30~16:00 で進める

2) 開催場所

草津市役所開催で進める（現状は 8 階大会議室確保済み）

2 階特大会議室は使えないか？

現状は幼児課が 1 月 20 日(土)の幼児課採用試験の予備日で確保
まちづくり協働課服部グループ長より幼児課に依頼して 20 日に
試験が行われた場合は、21 日の KIFA 使用 OK の約束取ってもら
いました。

受験者数により 20 日も午前中に終わるかも知れないそうです。

6 . 次回のネットワーク会議（最終会議の予定）

平成 30 年 1 月 9 日 10:00 ~ 12:00

UDCBK（南草津）

以上

草津市国際交流協会 K I F A					平成30年1月12日作成		
	会長	副会長	副会長	副会長	事務局長	協会	記録作成者
	***	***	***	***			浦 幹夫
件 名	「生活者としての外国人」のための日本語教育事業（平成29年度） 第4回ネットワーク会議						
日 時	平成30年1月11日（木）10時00分～12時00分						
場 所	UDCBK（南草津）						
出席者	委員長：宮下聖史立命館大学講師、委員：溝内辰夫、委員：大塚佐緒里 委員：大溝奈緒委員：Jie Zhang、委員：中原勝一、委員：西垣和美、 委員：谷口デボラ、委員：恩地美和、委員：鶴田真理子 地域日本語コーディネーター：中西まり子、事務局：浦幹夫						

平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の第4回ネットワーク会議を開催した。

1．取組4「多文化共生フォーラム」の全体内容の最終確認

1）添付のシナリオ（案）に基づき全体の流れを確認した

13:00「受付」は、補助者5名にお願いする

13:47「昨年報告」は、草津市議会の中村前副議長にお願いする

14:42「パイリンさん報告」の時に、恩地委員より「滋賀県モデルの説明」
を入れてもらう（パイリンさんの説明の理解促進のため）

2．先進地事例発表に関して

1）発表用資料

3番目、4番目の発表に関しては、溝内委員に資料作成頂く

その資料を基に、発表者の練習かねて打合せを行う（溝内委員）

2）活動掲示物等

1番目に関しては「ともにいきる地域づくり」のパンフの持参依頼する
10部（事務局）

2番目に関しては「やさしい日本語の広報」の現物の持参依頼する
10部（事務局）

3番目に関しては、拡大コピーで掲示物準備する（鶴田委員）

4番目に関しても、拡大コピーで掲示物準備する（谷口委員）

拡大コピーの費用は、文化庁費用より補填する

3．Work Shop に関して

1）最初の Work Shop 説明時に下記項目も話してもらう（船見先生）

行政の立場の方が参加している場合、発言しにくいかもしれないので、
「この場では行政職員の立場でなく、一市民の立場で発言ください」と

2) ファシリテーターの役割

各テーブルの議論をまとめる

グループ発表の発表者を決める

発表資料のまとめ方指導(資料の体裁は問わない)

3) 最初の取っ掛かりとして下記を参照頂くと、Work Shop に入りやすい

Why?として

「外国人と日本人が共に暮らすための、違いを活かした町とは？」

「外国人が住みやすいまちづくりとはどんな町？」

「外国人と日本語で会話をするととは？」で議論を始める

課題

その為の課題とは？

出来る事

その為にあなたが出来る事は？

提言

こうして欲しい等の提言までまとめられれば、まとめて欲しい

4. 参加者に関して

1) 現状は添付名簿通りで 60 名で 8 テーブルで予定している

参加者には事前に班割をしておいて進める

2) 参加者が増えた場合

1 or 2 テーブルを増設する準備をしておく

その場合は、立命館大学の服部君か白鳥君にファシリをお願いする

5. ネットワーク会議

ネットワーク会議は今回で最終とする。

この1年間の活動の総括は、2月15日の運営委員会で行うので、その内容はネットワーク会議メンバーにも共有するようにする

以上

草津市国際交流協会 K I F A					平成 2 9 年 9 月 2 1 日作成		
	会長	副会長	副会長	副会長	事務局長	協会	記録作成者
	***	***	***	***			浦 幹夫
件 名	「生活者としての外国人」のための日本語教育事業（平成 2 9 年度） ネットワーク会議分科会第 1 回多文化フォーラム検討会						
日 時	平成 2 9 年 9 月 2 0 日（水）1 3 時 3 0 分～1 5 時 3 0 分						
場 所	草津市役所「2 0 1 会議室」						
出席者	委員長：宮下聖史立命館大学講師、委員：溝内辰夫、委員：大溝奈緒 委員：鶴田真理子、委員：フォン（ベトナム）、委員：刘中京（中国） 委員：黄潔好（香港）、委員：重松叡子、委員：吉積尚子 地域日本語コーディネーター：中西まり子、事務局：浦幹夫 オブザーバー：恩地美和						

第 2 回ネットワーク会議で設置の決まった「多文化フォーラム」の第 1 回検討委員会を開催した。

1 . 自己紹介

1) はじめて参加するメンバーも多いので、各自自己紹介をした

2 . 「多文化フォーラム」の決定事項、検討事項の説明

1) 決定事項

開催日時 平成 30 年 1 月 21 日(日) 時間は未定

開催場所 草津市立まちづくりセンター又は草津市役所大会議室

2) 検討事項

テーマ「やさしい日本語で外国人が暮らしやすい町をつくるための提言」

その他検討事項

- ・事前の Work Shop を UDCBK で開催するか？
- ・Work Shop のテーマはどうするか？
- ・講師は必要か？
- ・まとめが出来れば市長報告も考える

3 . 上記の内容までの説明を受けたうえで、各自が考える「多文化フォーラム」に対する意見及び提案

1) 昨年度の多文化フェスティバルの実施状況の概要は？

事前に 3 回の Work Shop を UDCBK 主催で開催し、「子育て」「働く」「留学生の地域貢献（暮らす）」の 3 テーマで実施

当日は 3 テーマについて発表してもらった後で、ワールドカフェ形式での Work Shop を実施したが各テーマ共にまとめきれなかった

ネットワークメンバーに市議員が入ってくれていたこともあり、議員の方々に呼びかけ 24 人中 13 名が参加して、住民の意見を聞いてもらった
但し、各テーマ共に提言までまとめることはできなかった

2) テーマに提言まで入れると行政の方に受入にくいのでは？

「外国の人が参加して住みよい草津を作るには？」ではどうか？

特に留学生は日本語の必要性を感じなくなってる（BKC の英語授業化）

3) テーマにやさしい日本語は不必要ではないか？（上記の意見より）

多文化共生 / 多様性を強調していく方が良いのではないかな？

4) 外国人学生目で見ると、最初は何を聞けばいいかわからない？

日本での生活体験等を具体的に、又生活に必要なことを教えてほしい

自分たちが興味を持ったことを具体的に教えてほしい

草津市の特性で生活者より留学生の比率が高い

草津市では留学生抜きでは考えられない（地域の担い手になっている）

機能別消防団員のように県域レベルに広げて行ける活動もある

5) ゴミの種類、ゴミカレンダーの多言語化が必要でないか？

バス停、表示看板の多言語化も必要、バスの乗り方、銀行での手続き等も
教えてほしい

通常はその様なときに誰に聞くのか？ 家族、友達が多い

その様な時に外国人コミュニティの存在は重要（国により差が大きい）

6) 外国人コミュニティがどこに存在するかの情報の共有が必要

各市の国際交流協会などでその地区にある外国人コミュニティを調査

そのコミュニティのキーパーソンと繋がるのが重要

7) 住み方ガイドが必要では？

草津市では湖南省のようなやさしい日本語の広報ないが必要では？

転入者の市役所手続マニュアルが必要では？

8) 草津市でもやって欲しい事

広報のやさしい日本語化

多文化共生プランの作成

・福祉・教育・労政等幅広い協力体制必要

・在住外国人アンケート必要

9) 現在の日本語ボランティア等のサポート体制の構築が必要

コミュニティのネットワーク作りが必要

4. 具体的な多文化フォーラムの内容議論

1) テーマ(案)

「外国にルーツを持つ人の地域活動参加」

2) フォーラムの構成(案)

基調講演+パネルディスカッション

先進地事例発表(3 例)その後グループ討議

上記 2 案の内、参加者の意見を聞きだす場として の方向が良い

3) 先進地事例 (先進事業事例)

「感じて！ふれて！ベトナム」イベントを通じての地域との交流

- ・ベトナムコミュニティにて発表してもらう

湖南省又は甲賀市での取組事例

- ・湖南省の自治体環境作り事例
- ・甲賀市の協働事例

昨年度の「たぶんカフェ・ファイナル」の内容紹介

機能別消防団員の活動報告

恩地さんより提案

- ・黄さんが看護職員研修を受けて働き出している、この活動を紹介すれば？

上記の内、 だけは決定

その他どの事例にするか、早急に検討必要 (最悪メールやりとり)

10 月 12 日(木)の第 3 回ネットワーク委員会でも検討してもらう

4) Work Shop の具体化 (UDCBK 主催での開催)

ベトナムコミュニティの発表内容を纏める Work Shop は、開催決定で
詳細打合せて具体化していく

もう 1 回開催したいが、上記 3) の決定が必要

5 . 次回の多文化フォーラム検討会

昨日会議では 10 月 17 日(火)15:30 ~ 17:30 であったが、会議室の都合で
時間を 30 分遅らせての開催とします。

10 月 17 日(火) 16:00 ~ 18:00 草津市役所「201 会議室」

以上

草津市国際交流協会 K I F A					平成 2 9 年 1 0 月 1 8 日作成		
	会長	副会長	副会長	副会長	事務局長	協会	記録作成者
	***	***	***	***			浦 幹夫
件 名	「生活者としての外国人」のための日本語教育事業（平成 2 9 年度） ネットワーク会議分科会第 2 回多文化共生フォーラム検討会						
日 時	平成 2 9 年 1 0 月 1 7 日（火）1 6 時 0 0 分～1 8 時 0 0 分						
場 所	草津市役所「2 0 1 会議室」						
出席者	委員長：宮下聖史立命館大学講師、委員：溝内辰夫、委員：大溝奈緒 委員：鶴田真理子、地域日本語コーディネーター：中西まり子、 事務局：浦幹夫						

1 . 「多文化共生フォーラム」の決定事項、検討事項の説明

1) 決定事項

開催日時 平成 30 年 1 月 21 日(日) 13:30～16:00

開催場所 草津市役所大会議室(8F)又は特大会議室(2F)

2) 検討事項

テーマ「外国人も暮らしやすいまちづくり（共に輝く未来に向けて）」

その他検討事項

- ・事前の Work Shop を UDCBK で開催するか？
- ・当日の Work Shop のテーマはどうするか？
- ・当日の Work Shop のやり方は？

2 . 上記の内容の検討事項より「多文化共生フォーラム」の詳細内容を検討した

1) 全体の流れ（構成案）

草津市長挨拶（5 分） 13:30～13:35

草津市国際交流協会会長挨拶（5 分） 13:35～13:40

開会挨拶（10 分） 13:40～13:50

宮下委員長に 3 年間の活動の総括をお願いする

この中で中嶋前議長に昨年度の World Café の内容を話してもらう

先進地事例発表（15 分×2、10 分×2） 14:00～14:50

Work shop（話し合い 30 分、発表 20 分） 15:00～15:50

講評（10 分） 15:50～16:00

2) 事例発表 (先進地事例発表)

甲賀市国際交流協会

- ・「ともにいきる地域づくり」で外国人の活躍の場を提供している事
- ・多くの多分会共生の視点での活動内容
- ・まちの人財でつなぐ地域コミュニティの活動内容
- ・地域懇談会・民生委員活動への参画内容

湖南省国際協会

- ・広報のやさしい日本語版が出来るまでの経緯
- ・何故、広報の多言語化をやめて、やさしい日本語になったのか
- ・広報(やさしい日本語)作りの課題
- ・日本語教室が数多く開催されるようになった理由

ベトナムコミュニティ(地域活動事例)

- ・地元と協働で開催した「ベトナム DAY」の経緯
- ・機能別消防団員としての地域活動への参加

介護職員としての地域活動への参加(地域への貢献)

- ・介護職員として地域活動に参加していくためには？
- ・介護職員として地域貢献を進めるには？
- ・患者・同僚とのコミュニケーションをスムーズに進めるには？

3) 事前のUDCBKでのWork Shopについて

ベトナムコミュニティ

- ・Work Shopで上記の先進地事例記載内容と話して1月21日の発表内容をまとめる

介護職員

- ・上記の3つの課題を最初のテーマで話合った上で、更に活動を進めていくための課題を2又は4個出していく
- ・その課題を事例発表でしてもらう
- ・ここで提議された課題を、1月21日の多文化共生フォーラムの後半のWork Shopで皆で話し合う

各回の日程を早急に決定する

4) 多文化共生フォーラムでのWork Shop

テーマ

- ・事例発表の「介護職員」の話で出た課題を各テーブルに振分ける

定員

- ・8テーブル×8人=64名とする(ファシリテーター1名含む)

ファシリテーター

- ・宮下さん、溝内さん、恩地さん、中原さん、西垣さん、服部さん、鶴田さん、中西さん

発表

- ・各テーブルの発表内容は「250 字」以内とする（箇条書きも可）

司会

- ・大溝委員にお願いする

5) その他確認事項

全体講評

- ・運営委員会委員長の立命館大学井上課長に依頼する

市長挨拶

- ・市長の予定確認する（大溝委員）

以上

草津市国際交流協会の、文化庁事業「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の3年間の取組について(H30・1.21)

草津市国際交流協会

1. 平成27年度取組

1) その時点での課題

行政として草津市役所に外国人に対する情報提供の窓口が無い
草津市内の日本語各教室の講師数が少なく、又資質に差がある
草津市内の3日本語教室の間の、人的交流を含めた連携が取れていない
日本語教育の必要性は勿論、地域に外国人が住んでいる事に認識が低い

2) 平成27年度取組内容

草津市役所まちづくり協働課が、外国人対応窓口として位置づけられた
日本語教育指導者の資質のレベルアップのための研修会の実施(2h×10回)
各教室が20h分の日本語教育を実施したが、共同運営等を実施して教室間の交流を深めた
日本語教室と多文化共生の市民への理解促進のため「多文化共生シンポジウム」を実施した

2. 平成28年度取組

1) 課題の見直し

行政としての外国人住民の窓口は決められたが、外国人のニーズへの対応が不十分で拡充出来ていない
指導者研修の内容が少し難しかったので、新規参加希望者が少なかった
日本語教室も本当に日本語教育が必要な人に、その情報が届いていない
シンポジウムには地元自治会関係者の出席を期待したが参加者が少なかった

2) 平成28年度取組内容

外国人対応窓口の必要性を訴えるのに、運営委員会・ネットワーク会議に行政関係者と市議会議員に出席を依頼していった
指導者研修を入門編とステップアップ編に分け、両方のニーズに対応した
日本語教室の内容を、参加しやすいように体験型を中心に見直し、又UDCBKでは市民と外国にルーツを持つ人の交流の場として「やさしい日本語サロン」開設してもらい、同時にオリーブ教室に関しては20hの教室運営全体を再委託事業として実施した
28年度の文化庁事業の取組みの啓発・周知の場として、毎年KIEAが行っている「新春のつどい」イベントと合わせて、「World たぶんカフェ・ファイナル」としてWork Shop形式を開催し、草津市議会議員も16名参加いただき、多文化共生を認識してもらった。
事前にプレワールドカフェとして「子育て」「働く」「暮らす」をテーマとした外国人を交えたWork Shopを、UDCBKで3回行ない、そこで出た課題を「たぶ

んカフェファイル」のグループテーマとした。

3. 平成 29 年度取組

1) 課題の見直し

行政職員に外国人に対して「やさしい日本語」による対応で、外国人への対応が出来る事を理解してもらう必要がある

指導者研修会についても、新規指導者獲得が上手く進まなかった。

H28 年度は新たに毎週火曜日に、UDCBK の理解と協力を得て「やさしい日本語サロン」を開設できるようになったのでその充実が必要

市議員には、かなり事業が浸透できたが、自治会関係者への広報が思~~い~~うように進んでいない

2) 平成 29 年度取組

指導者研修会の 2 回を草津市役所行政職員向けの「やさしい日本語」研修会として開催できた

新規獲得者に関しても効果が出て、KIFA、オリーブの日本語教室に参加するボランティア指導者が増えた

支える対象としてだけでなく、外国人の能力を活かすという視点の必要性が認識され、野路町での取組みが成功し、外国人の地域貢献へと活動のモデルが出来た
他の国際交流協会、団体の協力を得て、この 3 年間の事業が結びついて、集大成としての今回の多文化共生フォーラムが開催できた

3) 特記事項

多文化共生フォーラムで発表のあった野路町での外国人の地域貢献の成功事例を「野路モデル」として幅広く広報して行くことが必要

以上